

平成11年 6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町1-684 Tel.0428-23-6859)

## 初代吹上トンネルの開さく

市内小曾木の黒沢と成木・北小曾木を結ぶ吹上峠には、明治36年開通といわれる明治トンネル(112m)、昭和33年完成の昭和トンネル(241m)、それに平成5年7月2日完成の平成トンネル(604m)の三つが重なり、道路交通の返遷史を考えるのに興味ある場所である。

ところで、最初に開さくされた明治トンネルであるが、レンガ巻きの重厚な感じのするもので、東京府(当時)に開さくされた道路トンネル第一号ということである。

これだけの予算規模を伴う工事が、しかもそれほどには経済効果が期待できないであろうこのトンネルが何故に設置されたのかについての史料は、私の知るところ見当らず疑問の状態が続いていた。

ところが平成10年10月1日、青梅市教育委員会発行の青梅市史史料集第48号『都下村落行政の成立と展開—青梅市成木報告書—』の171ページに次のような記述が載っている。

「……此処「西多摩の北海道」といわれる成木村では道路問題が重要な意味を持っている。明治36年竣工した吹上隧道についてふれてみたい。この工事は吹上峠にトンネルを穿ち、吹上峠—小沢峠の道路・橋梁の改修、架設を行うという大規模な工事であった。川口昌蔵を中心として明治19年発起、21年成木村有志者の寄附による設計計画、木崎雄蔵等上成木下分の反対により沙汰止み。ついで県または府の事業とすることを計画し政治的な奔走を始める。28年には青梅町より小沢峠までの道路が府税皆支弁道に編入され、30年測量技師来成、31年郡部会切下工事の予算可決(15,670円)隧道工事に変更(変更設計書1,522)、36年5月落成検査。郡部会、府知事への政治的な働きかけがおさまりの汚職問題を生んでいる。—中略—……成木—青梅—東京の重要路線は村内有力者の、三多摩壮士を通じて郡部会議員、府知事への働きかけによって完成したのである。村長が下分出身者より上分出身者になったことも一助になっている。」とある。

当時、成木村を含め、西多摩地域一帯は神奈川県に属していた。ところが、東京府の飲料水確保の必要さが背景となって、東京府への併合問題が起きており、西多摩選出の神奈川県議員は反対していた。明治26年に東京府へ併合されるのであるが、このような政治的な背景が、明治吹上トンネルの開さくにはあったのである。

(文責 川鍋)